



## NEWS RELEASE

報道関係者各位

2017年8月 17日  
株式会社ポーラファルマ  
Shuttle Pharmaceuticals Inc.

### ポーラファルマ、Shuttle Pharmaceuticals

### 放射線増感剤ドラニダゾールのライセンス契約締結のお知らせ

本日、株式会社ポーラファルマ（本社：東京都品川区、社長：荒木徳博）と Shuttle Pharmaceuticals Inc.（本社：アメリカ メリーランド州、CEO：Anatoly Dritschilo）は、低酸素性細胞放射線増感剤ドラニダゾール(Doranidazole)について、米国における独占的開発・商業化実施に関するライセンス契約を締結したことをご連絡致します。Shuttle Pharmaceuticals はドラニダゾールと定位照射を併用した際の安全性と有効性を検証するため、膵がん、肺がん、肝がん患者を対象に臨床試験を実施予定です。

今回の締結について、Shuttle Pharmaceuticals の CEO、Anatoly Dritschilo は“膵がんの放射線治療には改良の必要性があり、定位照射と併用するドラニダゾールには、臨床的あるいは実用的な機会があると考えます。また、がんには放射線治療に抵抗性を持つと考えられる低酸素領域があり、治療の失敗やがんの再発に影響を与えています。低酸素性細胞放射線増感剤を用いて定位照射をより進化させることができるこの機会を大変嬉しく思います”と述べています。

#### 放射線増感剤について

放射線増感剤は、手術には適さない固形がんの治療に用いる放射線治療と併用される医薬品です。正常組織内に対して認容性を維持しつつ、放射線への抵抗性を持つがん細胞に対して放射線の効果を高めることができます。現在、日米では低酸素性細胞放射線増感剤としての適応を有して固形癌の放射線治療に汎用される薬剤はなく、新しい(治療)アプローチや薬剤へのアンメットニーズがあります。

#### ドラニダゾールについて

ドラニダゾールはポーラファルマが開発した 2-ニトロイミダゾール誘導体の低酸素性細胞放射線増感剤です。ポーラファルマは日本において膵がん術中照射の適応で第3相試験まで、非小細胞肺がんの適応で第2相試験まで終了しました。中国では、ライセンス先の深せん万楽薬業公司により現在臨床試験が準備されています。ポーラファルマは中国、米国以外の地域についてがん領域に注力したパートナー（ライセンシー）を探しています。

#### 各社について

Shuttle Pharmaceuticals は、米国メリーランド州ロックビルに本拠を置く、放射線増感剤、放射線防護剤、放射線障害軽減剤等、癌への放射線の効果を修飾させる医薬品の開発及び商業化を目的とした創薬ベンチャーです。Shuttle Pharmaceuticals の詳細については [www.shuttlepharma.com](http://www.shuttlepharma.com) をご覧ください。

ポーラファルマは、ポーラ・オルビスグループのグループ会社で、東京に本拠を置く皮膚科特化会社です。世界中の人々が「日々健やかに、日々美しく生きる」ことを大切に考え、患者さんの悩みや望みを全身で感じ取り、疾病の真の原因を探求し一日も早く解決することに全力で取り組んで参ります。ポーラファルマの詳細については <https://www.pola-pharma.co.jp/index.html> をご覧ください。

以上

---

**【本件に関するお問い合わせ先】**

(株)ポーラファルマ 管理部 広報担当：増居・菅野  
TEL 03-5436-1020